

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771600503
法人名	社会福祉法人優真会
事業所名	グループホームかりんの郷
所在地	香川県仲多度郡まんのう町炭所西1521-1 (電話) 0877-79-1300

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年9月19日	評価決定日	平成19年11月8日

## 【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 8月 20日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 10人、非常勤 6人、常勤換算 14人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての1階部分
------	-------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000円	その他の経費(月額)	8,250円	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	50円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	5名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	76歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	滝宮総合病院、平田歯科医院、川口医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かで、静かな農村地帯にある。3,900㎡という広大な敷地の中に、社会福祉法人が運営するケアハウス(50名定員)とグループホームがある。グループホームの居室は、12畳相当で非常に広い。居室の入口には、顔写真入りの表札がかかっている。食堂のテーブルには季節の野の花が生けられ、静かなオルゴール曲が流れ、落ち着いた雰囲気がかもし出されている。職員は、「明るく、楽しく、その人らしく」の運営理念を実践しており、利用者の表情はとても良く、安心して生活している様子が見える。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画や個別記録には、改善の跡が見られる。また、利用者主体の暮らしの支援やニーズの把握に努め、より良くサービスを提供していこうとする姿勢がみられる。地域交流については、なお一層の努力を期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>事業所が総力をあげて、取り組んでいる様子が見える。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの取り組みと課題を報告し、出された意見には真撃に対応していこうという意欲がみられる。推進会議のメンバーに、家族代表者や自治会長を加えることが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の苦情については、管理者が話をよく聴いて解決に努め、職員にも周知し、ホームをあげて改善に取り組んでいる。職員が定着し、馴染みの職員によるケアが受けられるよう、最大の努力を期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域への積極的な働きかけが十分でないため、地域密着型にふさわしい機能が発揮できるよう、地域との交流を深めるべく努力を期待したい。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と共に歩んでいこうとする姿勢はみられるが、現在のところ、従来の理念で運営している。	○	地域に根ざしたグループホームとして、その理念の見直しを期待したい。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、日々その実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会や秋祭り等に参加している。祭りには獅子舞等が来るが、自治会、老人会等、地域交流は十分できていない。	○	地域の一員として、自治会、老人会、地域行事等に積極的に参加し、地元住民と交流することが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解し、改善に取り組んでいるが、全職員に徹底せず、元に戻ることもある。	○	評価を活かしてサービスが向上するよう、職員の意識改革に努めて欲しい。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回程度、運営推進会議を開催している。4月と10月は、家族代表者の参加を求めている。出された意見については真摯に受け止め、サービス向上に努めようとしている。	○	メンバーに自治会長や家族の代表者の参加を求める等、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保健所からはよく来てくれ、行くことも多く、役場にもよく行っている。いろいろなヒントをもらい、サービス向上に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月ごとにホーム便りに近況を添え、家族に送付している。職員の異動については、面会時に伝えている。ケース担当制としている。	○	担当者が異動したときは、早めに家族に知らせ、混乱予防を図って欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があったときは、管理者が家族等の話をよく聴いて、解決に努めている。第三者委員に相談するような苦情は、今のところない。職員にも周知し、運営改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	待遇面等で職員の離職が多く、「馴染みの職員による支援」がやや困難な状況にある。異動があった場合は、面会時に家族等に紹介している。	○	職員が定着するよう、あらゆる面からの対策を講じることを強く期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には派遣している。必要に応じて、個別のスーパービジョンも行っているが、職員の個別研修計画や内部研修計画には至っていない。	○	職員育成はサービス向上に不可欠なので、内部研修計画と実施に努力されるよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県外のグループホームへ、2日間派遣研修を実施した。レベルの差を痛感しており、研修の必要性を認識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員、利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう、ゆっくり、やさしく声かけしながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は、高齢者から教わるが多く、職員は利用者と共にし、特に共感的に接している様子がうかがえる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いやニーズを受け止め、実現しようと努めている。特に、非言語的ニーズを把握する大切さを実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に本人や家族の意見を聞き、ケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回モニタリングを実施している。新たな介護が必要になったときは、家族の意向も聞いて、早くサービスが提供できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のケアハウスと共に、納涼祭や敬老会等の各種行事を実施している。7月からは通所の人も受け入れている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の医院にかかっている者がほとんどだが、一部入居前の医師にかかっている利用者がいる。通院や歯科受診等の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	希望があれば、ターミナルケアを実施している。家族と共に看取った例もある。早い段階からの話し合いは十分できていない。	○	終末期等のあり方については、早い段階から本人や家族、医師等と話し合い、全員で方針を共有していることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	非常に開放的な雰囲気の中にも、プライバシーは尊重された介護が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のゆっくりしたペースにあわせた介護が行われている。その日のしたいことも聴くようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる利用者は職員と一緒に、準備や食事、片付けをしている。楽しみながらの食事風景がうかがえる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝から湯をはり、好きな時間に、毎日でも入浴できるようにしている。入浴介護のとき、利用者との会話がはずんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌やボール遊び、色ぬり、体操、玉入れ等、レクリエーションを提供している。畑があり、作物の様子を見に行くのを楽しみにしている人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買い物などを計画したり、個別の希望があれば、外出を支援している。もっと外出の機会を増やして欲しい。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外部評価の改善項目であったので、鍵をかけないケアを実施している。ドアを開けると、チャイムの音が鳴るようにしており、問題は発生していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署に来てもらい、講習と訓練の他、2回ぐらい避難訓練を実施している。地域との協力体制はできていない。	○	災害時に地域住民の協力が得られるような体制づくりが必要であり、民生委員に相談してみる等一つの方法と思われるので、今後期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な食事量や水分量の確保について、職員集団で気づき、記録をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い廊下の所どころにソファが置かれ、オルゴールの曲が流れ、換気、採光も適切である。特に、居室は広々とゆったりしている。また、共用室には季節の花が生けており、居心地のよい工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が広いので、使い慣れた物を持ち込み、自由にレイアウトできるゆとりがある。仏壇を持参している人もいます。寝たきり以外の人は、日中ほとんど共有空間で過ごしている。		